

〈 資 料 編 〉

目 次

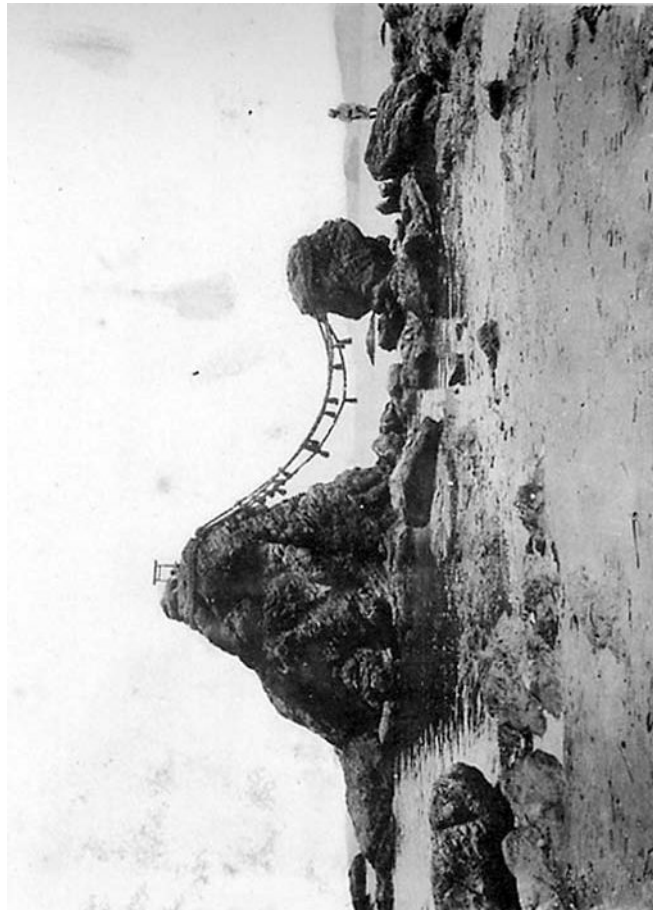
二見浦の今昔	142
二見浦の歴史年表	151
名勝二見浦の歳時記	154
二見浦に関する芸術作品等	155
二見浦観光客数	156
二見浦海水浴場の変遷と遊泳範囲	157
名勝二見浦保存管理計画策定委員会設置要綱	158

〇二見浦の今昔

ここに掲げる古写真は、大正7年（1918）の台風で損壊した立石（夫婦岩）女岩の工事写真帖と女岩修復後の大正年間の絵葉書である（提供：角谷委員）。

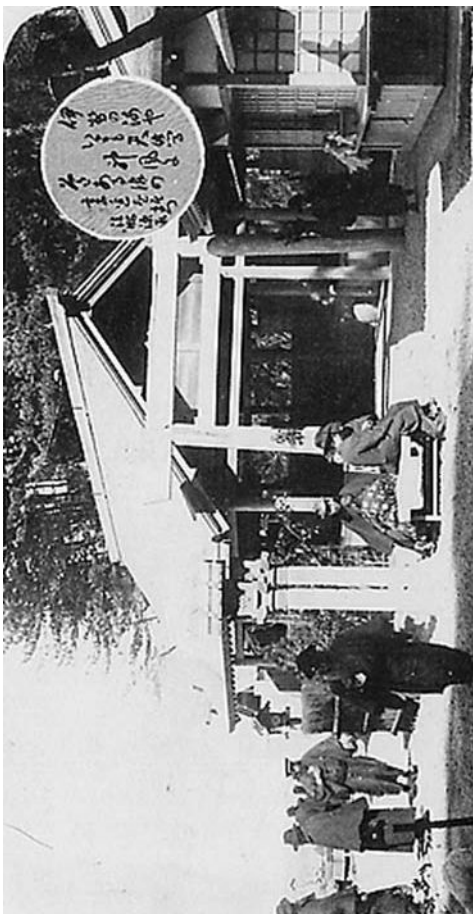
古写真右側に現在の風景を並べ、比較対象とした。

立石（夫婦岩）女岩の工事写真帖より



立石（夫婦岩）：大正7年（1918）9月の台風被害前と90年後の平成20年（2008）8月の比較

破損前の女岩はノッチの発達で根元がくびれていた。修復後は岩の向き・角度が変わっている。



二見興玉神社拝殿：当時は海側に参道があった。現在、拝殿前の鳥居はない。



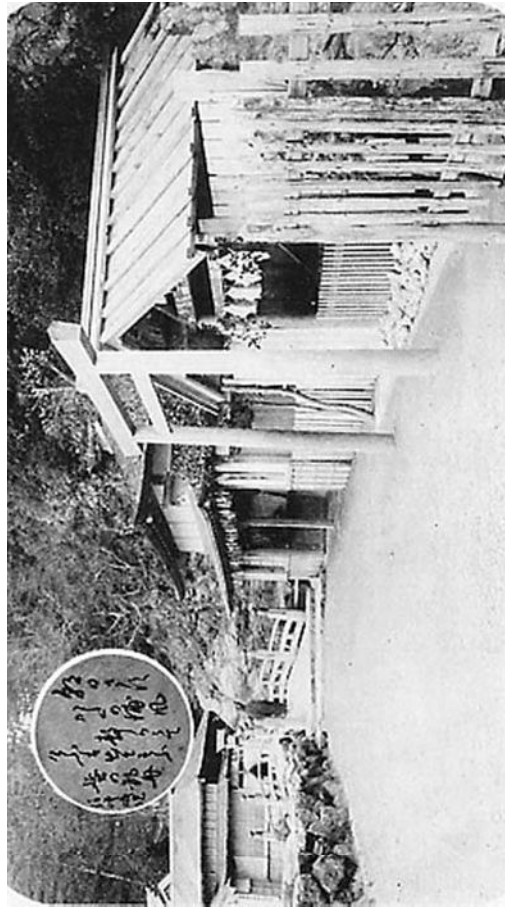
富士見橋周辺：現在手水舎のある位置に三角堂と称される接待所があった。

富士見橋も当時は木造で、橋幅も狭い。



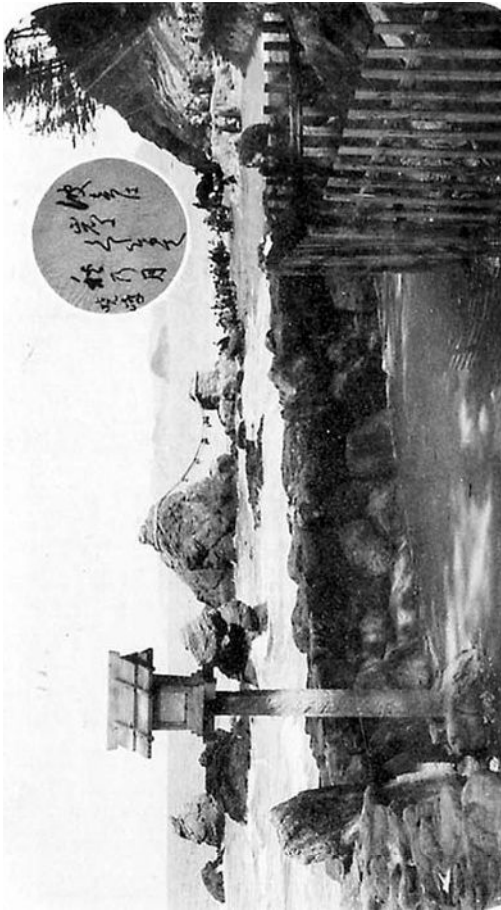


手水舎：昔は大きな蛙が一匹だった。今は蛙も代替わりし、数が増えている。

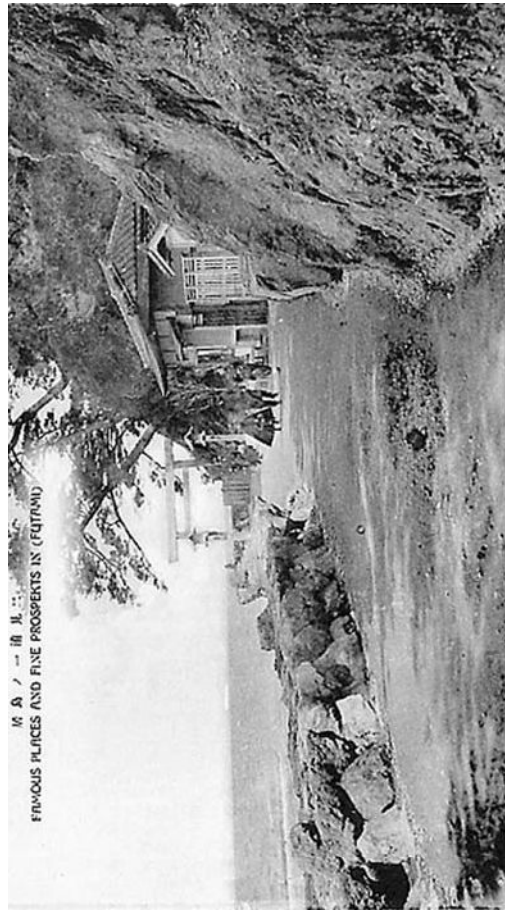


天の岩屋：当時は朱塗りではなかった。



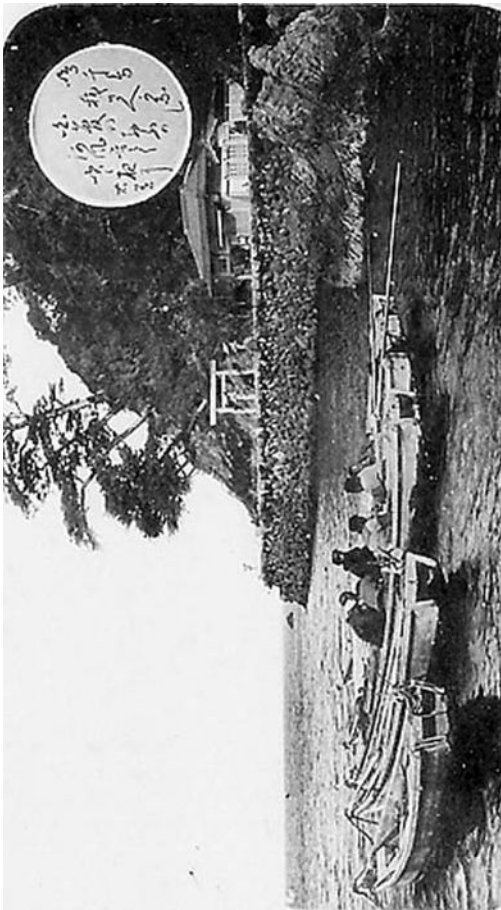


名物岩一覽：当時の烏帽子岩（左端）も蛙の容姿に見える。女岩近くの浜まで参拝客が下りているのが分かる。

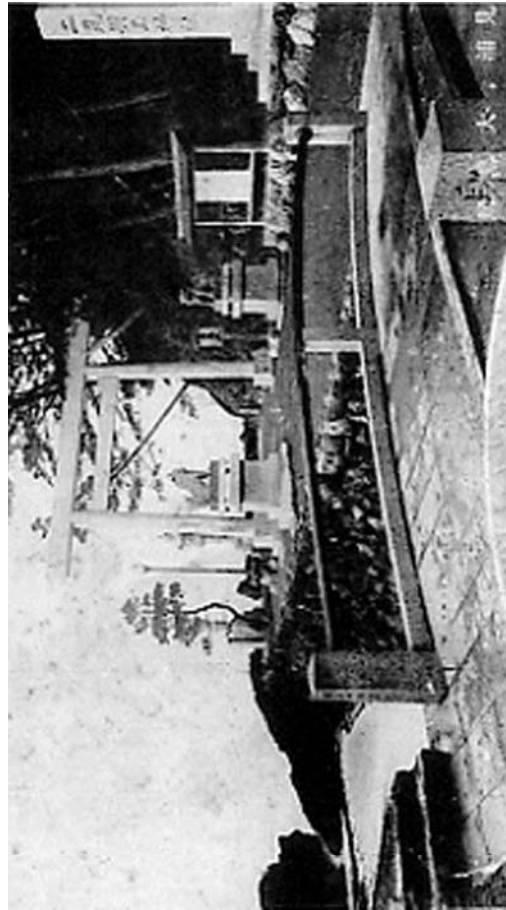


二見興玉神社一ノ鳥居：大正15年（1926）に参道入口に鳥居が立つたため、今は二ノ鳥居になっている。





二見興玉神社一ノ鳥居：海側から見た様子。当時は大きなクロマツが斜面に生えていた。



二見興玉神社入口：一ノ鳥居が参道入口に立てられた後。今は暗渠となつてゐる鮫川に橋が架かつてゐた。





二見浦風景：昔も突堤はあったが、今では大きく造り替えられた。



二見興玉神社参道：最近復刻された「貝めし」の看板が見える。



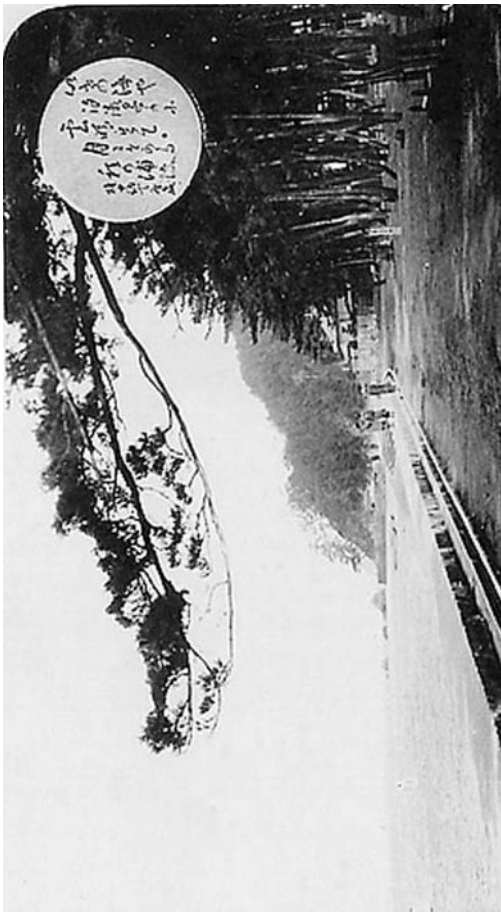


二見浦風景：海岸護岸のない当時の風景。クロマツもまだ少ない。



二見浦清記念碑付近：当時は道から海辺まで特に境がない。現在と比べるとずいぶん開けて見える。





二見浦汀線：当時はとても見晴らしがよいものの、マツ林は高潮をまともにかぶりそうである。

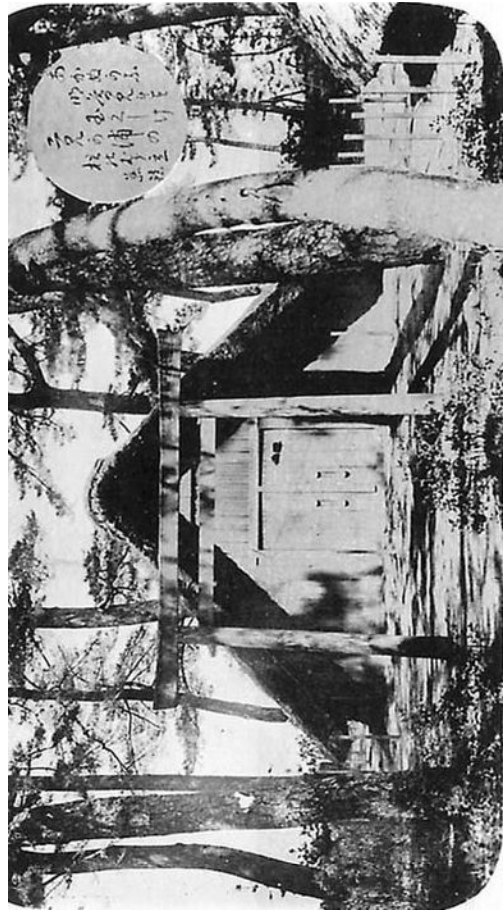


二見浦の海岸線：海岸護岸の分だけ海が遠のいた感がある。遠景では二見中学校の白い体育館が大きな変化となっている。





旅館街：建物が無くなった場所は駐車場となっている。左側の塀は朝日館別館。



御塩焼所：建物の形状にほとんど変化は見られない。天地根元造の様式を変わらず保ち続けている。

○二見浦の歴史年表

西暦	年号	二見浦に関する出来事	歴史上の出来事
B. C4	垂仁 26		・皇大神宮創祀
478	雄略 22		・豊受大神宮創祀
673	天武 1		・斎宮制度成立
715	靈龜 1	・従来の50戸1里制の、里の呼称を郷とし、郷の下に新しい里を1郷2・3里の割合で置くことに改める。二見郷は二見里、難田里、栗栖里の3里からなる。	
731	天平 3	・6月18日、二見郷長の石部嶋足、神宮で急病のため死亡。天皇の御所で物怪がしきりにおこるので陰陽寮にはからせたところ嶋足の死穢によるものと判明。	
804	延暦 23	・伊勢神宮の止由氣宮儀式帳、皇大神宮儀式帳が撰上。二見郷の御塩焼物忌、無位神主乙継女、父、無位神主虫麻呂が御塩山の木を御塩殿に切り運び、荒塩に焼き、御塩塙をつくり物忌に焼かしめる云々。	
921	延喜 21	・凡河内躬恒、「躬恒集」の中で二見浦を詠む。	
931	承平 1	・敦忠朝臣、「後撰和歌集」の中で千尋の浜を詠む。	
1040	長久 1	・二見浦で料理した蛤で、斎宮の女官たちが貝合せ。	
1170	嘉応 2	・天覚寺を建てた荒木田成長が一禰宜となる。	
1180	治承 4	・西行、高野山を下り、二見安養寺のかたわらに草庵を結ぶ。戦乱を避けての伊勢移住であり、文治2年(1186)奥州平泉へ赴くまでこの地に居て、「二見浦百首」を勧進	・源頼朝、挙兵 ・東大寺大仏殿焼失
1181	5	・正月、熊野の悪僧ら伊雑宮を狼藉、その後二見浦に至り、人家を焼き山田に攻め入る。首領の僧・戒光、矢にあたり二見へ退き、女子供30余人を連れ去る。	・平清盛没
1186	文治 2	・東大寺大仏殿再建の祈願のため、僧重源が僧侶60人、雑人700余人を率いて神宮に参拝し、天覚寺において大般若経600巻を転読。そのとき5日間天覚寺に逗留し、内宮長官・成長神主の手あついてもなしをうける。 ・2月、吉野山に潜伏中の源義経が伊勢に来て所願成就を祈るが、二見出身といわれる伊勢三郎義盛も同行したと思われる。しかし、伊勢三郎は7月、京都で捕縛され首をさらされる。 ・秋、鴨長明が西行に会うべく二見を訪れるが、西行は奥州旅行に旅立っていた。	
1195	建久 6	・僧重源、大般若経一部600巻を天覚寺に安置。	
1207	承元 1	・最勝四天王院の障子和歌で二見浦が歌題となる。	
1215	建保 3	・内裏の名所百首において二見浦が歌題となる。	
1291	正応 4	・女西行と呼ばれ、後深草天皇にも仕えた歌人二条が二見浦に遊覧。夜は塩合の大宮司の家に泊して歌会。	
1295	永仁 3	・神宮の神主、供僧16人により「伊勢新名所絵歌合」成る。これに二見の打越浜、三津港が選ばれるが、絵図は写実的で史料としても価値が高い。まだ立石に注連縄は見られない。	
1498	明応 7	・8月25日、明応東南海地震。大津波により五十鈴川の本流が江川から塩合川にいれかわる。	
1654	承応 3	・江村年寄より、江村の被官である立石茶屋の者がわがままとして、訴状がだされる。	
1668	寛文 8	・荘村、立石崎藻草の件で江村を訴える。	
1686	貞享 3	・立石崎に茶屋を設ける。	
1689	元禄 2	・9月、松尾芭蕉、伊勢参宮の旅に出、二見浦や西行を詠む。	
1707	宝永 4	・10月4日、宝永東海・東南海・南海地震。津波あり、各所の堤が切れる。江村への立石崎垢離場の通路1町余と山際畑2、3反が潰れる。	・富士山(宝永山)噴火 ・赤福創業

西暦	年号	二見浦に関する出来事	歴史上の出来事
1751	寛延 4	・打越浜が波浪浸食により徐々に後退していく記録あり。	
1797	寛政 9	・「伊勢参宮名所図会」が刊行され、二見では、二見浦、三津、伊勢島めぐり、御塩殿、蘇民将来社などの絵図が紹介される。	
1830	天保 1	・「お伊勢参り」が全国に流行、お蔭年。1月より8月にかけて参宮者は427万余人という。江村と茶屋は浜で施行。	
1834	5	・老中・掛川城主の一行が茶屋へ宿泊、本陣は角屋六郎右衛門(現朝日館)。	・水野忠邦、老中となる
1839	10	・5月、禁裏御女中80人が二見浦を遊覧。江村は人足20人をだし、鯛、鮑を取って見せる。	・蛮社の獄
1844	弘化 1	・9月、茶屋組(江村に属し、1村の扱いをうけていない)その氏神とする三宮神を造替、神遷。	
1854	安政 1	・11月3、4日の両日、安政東海・東南海・南海地震。大津波発生。興玉神石が海中に没する。江村文書によれば、4日の5時半(朝9時)大地震、4時(10時)大津波。惣家数133軒、流失4軒、流納屋5軒。	
1856	3	・4月、津藩主の一行300余人、山田奉行一行70余人、大筒の台場建設のために二見を検分。	
1863	文久 3	・5月、松下村神崎山、茶屋海岸、今一色村に砲台を設置。山田原村に駐兵の陣屋を設けて、880人の要員を置く。	・薩英戦争
1882	明治 15	・10月19日、衛生局長長与専斎のすすめにより、立石崎の海浜に海水浴場を開く。日本での海水浴場第1号。	
1884	17	・7月、立石砲台地跡に、海水温浴場を開く。この開設により先の海水浴場がこの所へ移る。	
1886	19	・12月、「賓日館」建築工事着工。	・「神苑会」設立
1887	20	・2月19日、神苑会の宿泊所として、「賓日館」落成。 ・3月7日、英照皇太后、二見浦を遊覧して賓日館に宿泊、翌8日、鳥羽へ。	
1891	24	・7月29日、皇太子明宮嘉仁親王(大正天皇)避暑、療養、臨海学校のために二見浦へ行啓。軍艦で鳥羽上陸、人力車にて、二見浦賓日館へ。以後は8月20日まで滞在あり、勉学、武術、散歩、海水浴を日課とする。	・尾崎行雄、第1回衆議院議員総選挙で当地より初当選
1895	28		・「神都名勝誌」刊行
1897	30	・6月18日、江村・大江寺の鎮守、興玉社を分霊して立石崎へ神遷、同地に村社・興玉神社を新祭。	
1905	38	・現在旅館街のある新道が開設。これにより、立石崎興玉神社の門前町が形成。	・日本海海戦
1908	41	・8月、伊勢電気会社の電灯区域を二見町に拡大。ランプや行灯を使っていた茶屋の旅館街にも電灯が点る。	
1909	42	・3月、二見局の電話が開通。 ・神宮徴古館に「賓日館」の陳列物を移設。	
1910	43	・3月末日、三宮神社と興玉神社を合併、無格社・二見興玉神社と改称。	・日韓併合
1911	44	・2月、「賓日館」、旅館二見館を営む若松屋に売却。別館として利用。 ・5月21日、照憲皇后、二見浦へ行啓、地曳網や立石崎で御木本の海女船を見物、賓日館に休憩のち帰途につく。 ・7月21日、国鉄参宮線の山田―二見―鳥羽間が開通。二見浦駅が開業。 ・皇后の伊勢神宮参拝を記念して発行した「伊勢行啓図会」に「立石はまた夫婦岩といい」と紹介される。	
1918	大正 7	・暴風雨で立石(夫婦岩)の女岩が流出。	
1919	8	・御塩浜より立石崎に至る海岸の護岸工事。	

西暦	年号	二見浦に関する出来事	歴史上の出来事
1930	昭和5	・この頃から「賓日館」の改修始まる。	
1932	7	・4月、二見浦旅客索道株式会社が音無山にロープウェイを架す。	・満州国成立
1935	10	・打越浜より御塩浜に至る海岸の護岸工事。 ・「賓日館」の大広間棟整備。	
1936	11	・1月22日、二見浦が三重県第1号の名勝として指定。	・二・二六事件
1941	16		・太平洋戦争勃発
1942	17	・12月、戦争のため音無山ロープウェイが廃止。	
1946	21		・伊勢志摩国立公園誕生
1952	27	・3月、音無山、立石崎より今一色に至る松原及び海岸が、伊勢志摩国立公園特別地域に指定。 ・7月10日、立石を含む一帯の島礁が県文化財（名勝）として追加指定。	
1959	34	・9月26日、伊勢湾台風襲来。死者1名。学校校舎、耕地等に大きな損害をうける。	
1960	35	・4月、海岸部の護岸工事を始める。 ・二見浦に48万人を越す学生客が訪れる（ピーク年）	
1964	39	・3月、海岸高潮対策護岸工事完成、海岸18基水銀灯建設。 ・11月、第1回二見浦俳句大会を開催。	・東京オリンピック大会
1968	43	・3月、二見浦公園工事完工。 ・8月、立石（夫婦岩）の男岩、補修工事完工。	
1970	45	・4月、新二見トンネルが完工開通。 ・5月、名勝案内看板設置。 ・二見町風致地区が変更。	
1979	54	・町の木が「くろまつ」に決定。	
1984	59	・3月26日、礼宮文仁親王殿下（現秋篠宮殿下）「賓日館」庭園北側にて記念植樹。	
1987	62	・2月、二見浦公園内歌碑建立除幕式（3基、第1年次分）。	・JR発足
1991	平成3	・6月、第1回夫婦岩サミット・二見町で開催。	
1992	4	・6月、音無山遊歩道等の整備。平成7年（1995）完成。	
1993	5	・2月、JR二見浦駅舎完成。 ・12月、音無山に水銀灯・便所設置。	
1996	8	・7月、二見浦海岸が、日本の渚・百選に選ばれる。	・「海の日」設定
1997	9	・3月、第1回めおとフェスタを開催。 ・9月、「賓日館」が国の登録文化財に登録。	
1999	11	・11月30日、二見館休業に伴い「賓日館」も宿泊施設としての役割を終える。	
2000	12	・近畿自然歩道「御塩づくりにふれるみち」コース誕生。 ・養浜、突堤、堤防を組み合わせた三重県の海岸浸食対策事業が始まる。	
2001	13	・12月14日、「二見町の景観・文化を守り、育て、創る条例」施行。	
2002	14	・4月、町並み環境整備事業が開始。	
2003	15	・11月3日、二見町に寄贈された「賓日館」が資料館として開館。	
2004	16	・3月、音無山駐車場、トイレ、東屋等の整備。 ・同月17日、「賓日館」が県の有形文化財に指定。	
2005	17		・二見町、合併で伊勢市となる
2006	18	・7月28日、二見浦が伊勢市第1号の国の名勝として指定。	
2007	19	・「伊勢神宮、二見浦、夫婦岩と参道の街並み」が「美しい日本の歴史的風土100選」に選定。	

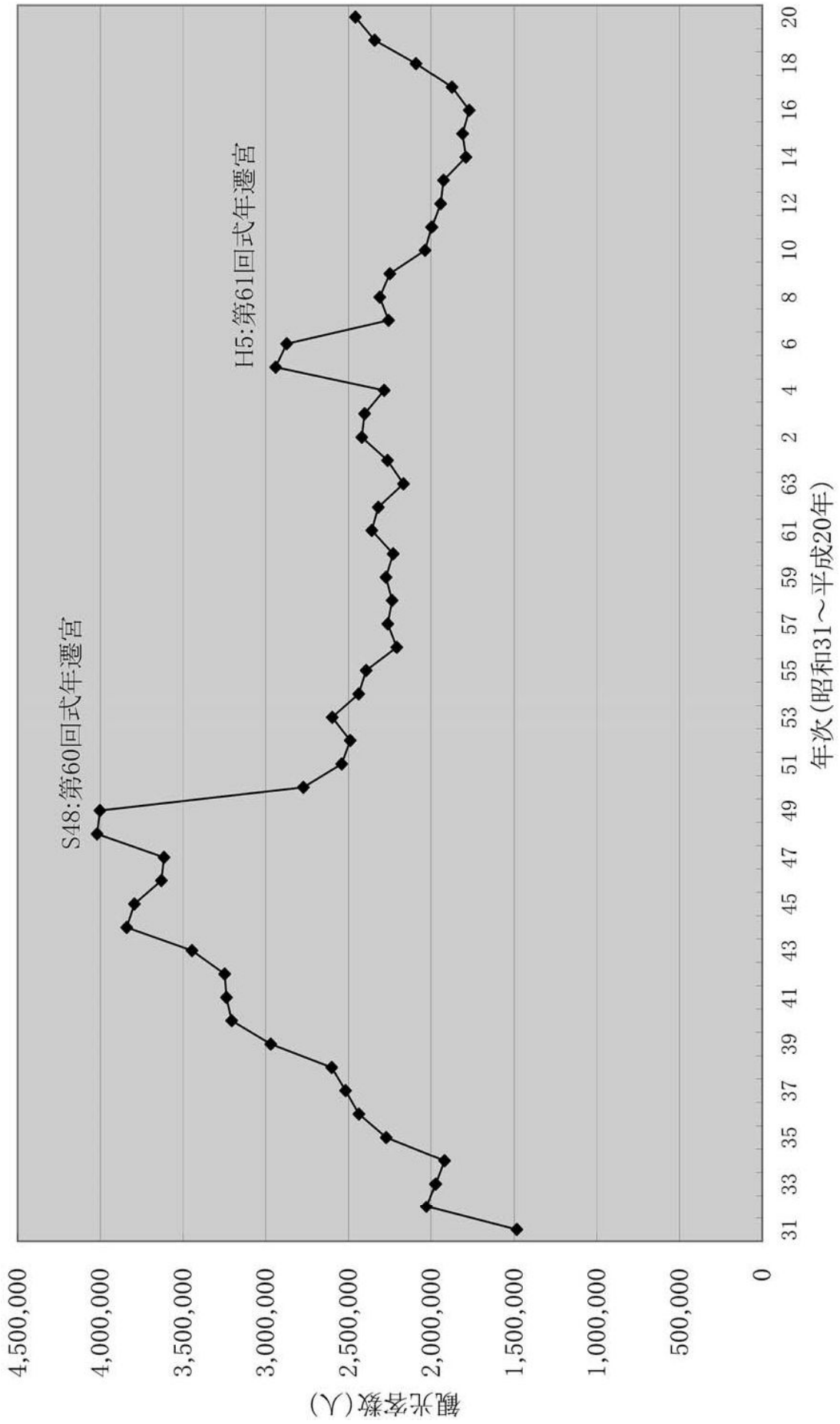
○名勝二見浦の歳時記

時期	行事	場所	内容
1月1日	歳旦祭	二見興玉神社	皇統の繁栄と、五穀豊穡と国民の加護を祈念する中祭として行われる。
2月上旬から3月3日	おひなさまめぐり in 二見	二見浦表参道 一帯、町内	旅館街に「ひな人形」の展示を行ない、期間中の週末にはおひなさまにちなんだイペントを開催する。
3月上旬（5日間）	御塩焼固	御塩殿神社	御塩浜で作られた鹹水から精製した荒塩を三角錐の容器に入れ焼き固め、堅塩を作る。
5月5日	夫婦岩大注連縄張神事	立石（夫婦岩）	男岩と女岩を結ぶ大注連縄を張り替える。
5月21日	藻刈神事	興玉神社	二見浦で沐浴できない者に授けた無垢塩草を採取する。興玉神石上で櫛と幟を立てた船に神職が乗り、手鎌で藻草を刈り取って奉納する。
旧暦5月15日	郷中施	龍宮社	寛政年間の大津波による犠牲者を慰ぶ。木舟にきゅうり、みる、まつななどの供え物に乗せ、巫女の手により海に流す。
夏至の日	夏至祭	二見興玉神社	海中に身を浸し、昇る太陽を伏し拝む。
7月上旬	浜開き	二見浦海水浴場	祝詞を奏上し、神職によるお祓いを行う。
7月14・15日	二見大祭しめなわ曳	JR二見浦駅～ 二見興玉神社	夫婦岩に張り替えられる大注連縄を奉曳車に載せて二見興玉神社へ奉納する。木遣り唄、二見太鼓などを披露し、旅館街を練り歩く。
7月15日	二見例大祭	二見興玉神社	夫婦岩前の現在地に奉還した明治30年以來行なわれている。祭神猿田彦大神と宇迦乃御魂大神の二柱を祭るため、様々な行事が催される。
7月上旬の日から 約1週間	採鹹	御塩浜	汲みあげた海水を天日で濃縮し塩水をつくる。作られた鹹水は樽に移し替えられ、御塩殿神社の御塩汲入所へ運ばれる。
8月上旬	荒塩奉製	御塩殿神社	御塩汲入所へ運ばれた鹹水を一昼夜隣接する御塩焼所で火にかけ荒塩を精製する。
9月5日	夫婦岩大注連縄張神事	立石（夫婦岩）	男岩と女岩を結ぶ大注連縄を張り替える。
10月5日	御塩殿祭	御塩殿神社	より良い堅塩がより多く得られるように祈るとともに、製塩に携わる作業者の安全を祈る。
10月上旬（5日間）	御塩焼固	御塩殿神社	8月に奉製された荒塩を三角錐の容器に入れ焼き固め、堅塩を作る。
12月中旬の土曜日か日曜	夫婦岩大注連縄張神事	立石（夫婦岩）	男岩と女岩を結ぶ大注連縄を張り替える。
お木曳行事、お白石持ち 行事催行前	浜参宮	二見興玉神社	両行事に参加するに先立ち、各奉曳（奉献）団が行う清めの儀式。昔は海中で禊を行ったが、現在は社頭でお祓いを受けることが多い。

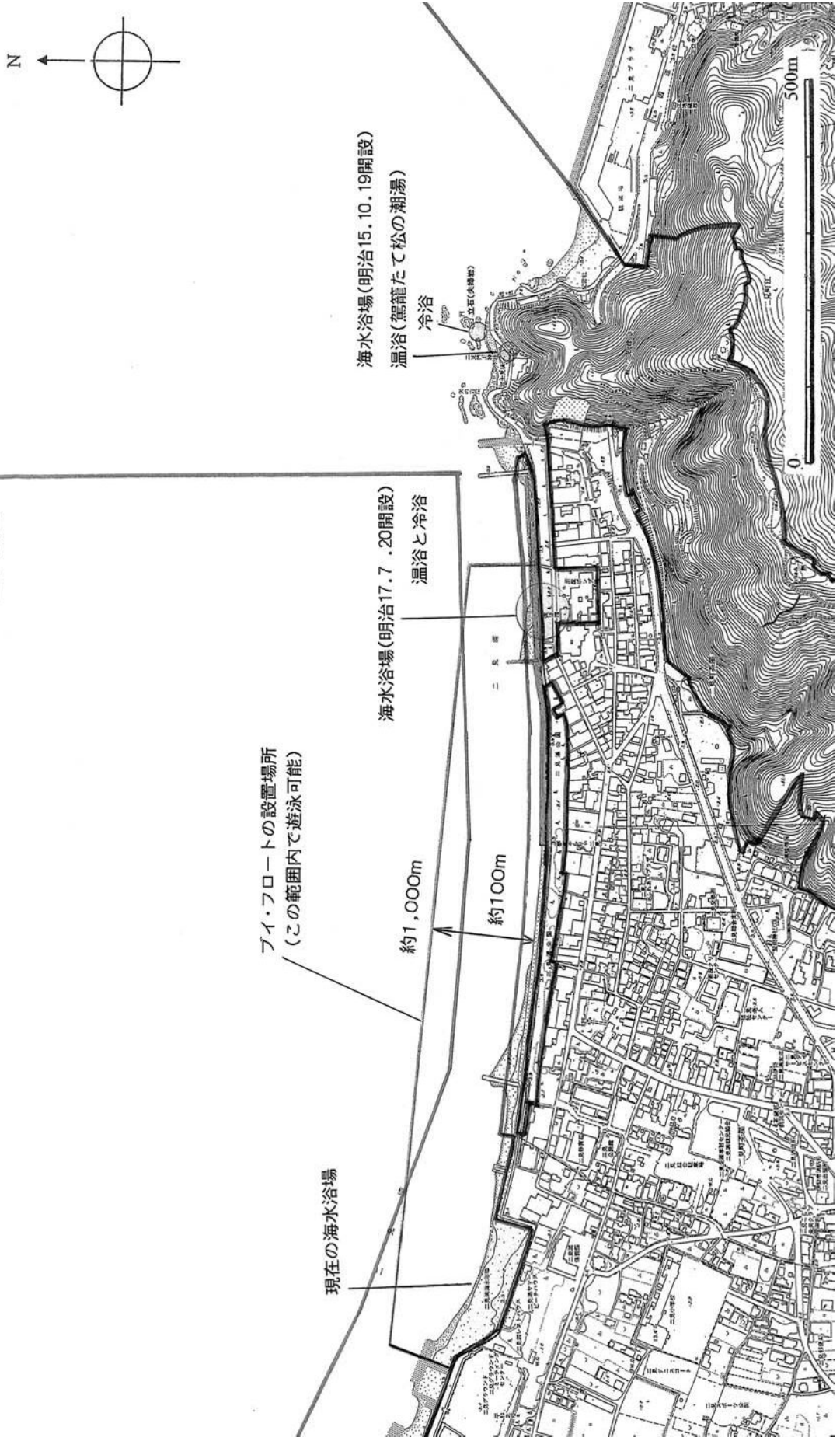
○二見浦に関する芸術作品等

歴史書	『大神宮諸雜事記』	『皇大神宮儀式帳』	『西村社寺之覚』	『神都名勝誌』
	歌川広重	『伊勢参宮略図』		
	二代喜多川歌麿	『諸国名所風景 伊勢あいの山』		
	歌川豊国	『夫婦岩』	『伊勢の海士長鮑制ノ図』	
	二代歌川広重	『諸国名所百景 二見ヶ浦』	『伊勢名所 二見ヶ浦の図』	『伊勢名所二見ヶ浦之図』
	玉蘭齋貞秀	『富士三十六景 伊勢二見の浦』		
	喜多邸豊景	『伊勢御遷宮之図』	『二タ見ヶ浦』	
	歌川国芳	『伊勢名所 二見浦之図』		
	小林清親	『二見ヶ浦の光景』		
	勝川春好	『日本名所図会 二見の浦』		
絵画	『伊勢行啓図会』	『伊勢新名所絵歌合』	『伊勢参宮名所図会』	中村左洲
	向井源吉『伊勢両宮参拝順路之図』			
版画	塔南居士			
	大正初期の絵ハガキ			
写真	碁檀越の妻『万葉集』	大伴家持『続古今和歌集』	藤原敦忠『後撰和歌集』	凡河内躬恒『躬恒集』
	少将内侍『後撰和歌集』	『催馬楽』	『金葉集』	『林下集』
	西行法師『新古今和歌集』	西行法師『山家集』	西行法師『千載和歌集』	前中納言匡房『新古今和歌集』
	順徳上皇『新古今和歌集』	鴨長明『伊勢記』	藤原定家『新古今和歌集』	慈円『新古今和歌集』
	後鳥羽上皇	藤原俊成	源実朝	本居宣長
	一権彌直慶彦	中村九一	伊藤東涯	契沖
	加藤千蔭	香川景樹	佐々木信綱	窪田空穂
	林羅山	林春信	頼山陽	信充
	『日本書紀』	『倭姫命世記』		
	山口誓子	小路紫峽	阿波野青畝	橋本鶏二
俳句	松尾芭蕉	松島十湖	冬嶺星	内藤まさを
	為田只青			
近代詩	清水みのる			
随想	坂口安吾『安吾日本地理』			

○二見浦観光客数



○二見浦海水浴場の変遷と遊泳範囲



名勝二見浦保存管理計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 文化財保護法の趣旨に基づき、名勝二見浦の適切な保存及び管理を行うことを目的とする保存管理計画を策定するため、名勝二見浦保存管理計画策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 策定委員会は、名勝二見浦保存管理計画原案を作成し、必要に応じて名勝指定範囲内の現状変更等について調査審議する。

(組織)

第3条

- (1) 策定委員会は、伊勢市教育委員会が委嘱し、別表1に掲げる委員をもって構成する。
- (2) 委員長及び副委員長は、伊勢市教育委員会が委員のうちから選出する。
- (3) 委員長は委員会を主催し、副委員長は委員長が不在の時に代行して主催する。(
- (4) 伊勢市教育委員会は、必要があると認めるときは、策定委員会委員以外の者を策定委員会に加えることができる。

(臨時委員)

第4条

- (1) 策定委員会に特別の事項を調査審議させるため必要があるときは、臨時委員を置くことができる。
- (2) 臨時委員は、伊勢市教育委員会が委嘱する。

(委員及び臨時委員の任期)

第5条 前2条の規定により委嘱された委員及び臨時委員の任期は、当該事項を調査審議し、保存管理計画書を作成するまでとする。

(会議)

第6条 策定委員会は、委員長が必要に応じて召集する。

(協力者連絡会)

第7条 策定委員会に協力者連絡会を置く。

- (1) 協力者連絡会は、伊勢市教育部長を座長とし、別表2に掲げる者をもって構成する。
- (2) 協力者連絡会は、策定委員会の求めに応じ、情報提供及び意見具申を行う。
- (3) 座長は、必要があると認めるときは、別表2に掲げる者以外の者を構成に加えることができる。

(庶務)

第8条 策定委員会の庶務は、伊勢市教育委員会事務局文化振興課において処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、策定委員会の運営に関し必要な事項は、伊勢市教育委員会が定める。

附則 この要綱は、平成19年5月28日より施行する。

※別表1、別表2の内容については、P6・7「1 策定委員会の構成」参照。